ザ・クエスト

世界的な感染症の大流行、隔離、物理的な距離を乗り越え、イエスが7年ぶりとなるスタジオ・アルバムを制作。
『ザ・クエスト』は2021年10月1日の発売と同時にファンに熱く迎えられ、
英ロック＆メタル・シングルズチャートで代表曲「ジ・アイス・ブリッジ」がトップとなり、
アルバムも英アルバムチャート20位まで上り詰めた。

「当初は不安でしたよ。これまでにこんなやりかたをしたことありませんからね」と、アラン・ホワイトは言う。
「これまではいつもみんな同じ部屋にいて、アイデアやいろんなことをあれこれを話し合っていました。
このアルバムは他のイエスのアルバムとは幾分違うものだと思います。
ウケ狙いの曲もいくつかありますが、それとは別にかなり複雑なオーケストラのような曲もあります。
なので、意味を捉えるために何度か聞くことが必要ですね。それで意味が分かると思いますよ。
私はこの、一歩外れた感じがいいなと思っていますよ。
イエスの歴史の中でアルバムとして収まりつつも、際立った存在になっていると思います」。

「アルバム制作に集中した後は3～6か月開けてから聴き直すようにしているんですよ。
自分の耳でどのように感じるか確認するためにね」と、『ザ・クエスト』のプロデュースを手がけたスティーブ・ハウは語る。
「スタジオに座り、曲を流し、CD2まですべて聴きました。このアルバムの多くをとても気に入っています。
過去から学んで少し違った視点でアプローチした部分もあります。改善できるポイントも見つけましたね。
ある曲でギターを少しやり過ぎたかなと思ったところがあったんですが、それがこの曲なんだと思えば、
そんなにがっかりしませんでした。曲順もしっかり、正しく、あるべきところに収まっていますよ。

ボーナスディスクに来ると、『スリーピング・シスター・ソウル』は非常に美しい曲で、
次の『マジック・ミステリー・ツアー』は楽しく、そして、最後に『ダメージド・ワールド』と続きます。
ボーナスアルバムは、他の大きな曲よりも親しみやすく、アンコールのようなものです。
『ア・リビング・アイランド』は壮大な曲で、私たちイエスがここ数年どんな道を辿ってきたか教えてくれます。
でも、それがアルバム全体のテーマではないことが、また良いですね。

私たちがもたらすのは希望であり、方向性だと思います。
このアルバムではそれを上手く表現できたんじゃないかなと思います。
すごいところまで持って行けましたから。レーベルも気に入ってくれて、それが励みになりましたね。
でもバンド、そして音楽に対してその責任が何を意味するのかは見失いませんでした」。

ジェフ・ダウンズは『ザ・クエスト』の収録曲の一部をライブ演奏することに期待を膨らませている。
「どれも素晴らしい曲だと思います。必要は発明の母というように、
みんなが置かれていた状況からそれぞれできることをしなければなりませんでした。
私はダウンズ・ブレイド・アソシエイションのアルバムでクリス・ブレイドとこういうやり方でたくさん仕事してきたので、
まったく未知のやり方ではなかったですね。
常にデータでやり取りしていたので、私にとってはなじみのないことではありませんでしたよ。

実際には、何回か対面で集まることもありましたね。
スティーヴと一緒にスタジオでレコーディングしていて、ジョンが途中で入ってきたんです。
大西洋のこちら側では自分たちの作業をいい感じにまとめることができました。
それからリズムセクションのほうはアメリカでやっていたので、コミュニケーションをたくさん取り合いましたよ。
それがこの状況でよかったことだと思います。
ラフミックスやパーツの送付など、常にメンバー間でコミュニケーションを取っていたんですよ。
スティーヴはその中でも非常にクリエイティブでしたね。
彼はいろんなところからちょっとずつ集めてきて、エンジニアのカーティス　シュヴァルツと一緒に曲としてまとめていたんです。

できるだけ多くのアルバムの要素を取り入れるのは良いことだと思います。
それから、ジョンとビリーがやってきたことを私たちがやるっていうのもポイントですね。
『危機』の50周年記念をするだけでなく、
今ステージに立っている6人の最近の作品も称えることをするのも良いですよね」。

「『ザ・クエスト』の制作は非常に記憶に残る経験でした。
世界中の人々と同様、私たちもまさに今世界で起きていることを理解しようとしていた真っ最中でしたから」と
ジョン・デイヴィソンは話す。
「最初のロックダウンによる混乱や恐怖が、イエスの中で多くのクリエイティブなエネルギーを生むきっかけになったと思います。
そして、そのネガティブな感情を逆手に取って、さらに曲作りに励み、原動力とし、
自分たちがとても誇りに思うアルバムに仕上げることができました。

私が一番ライブで演奏したいのは、『フューチャー・メモリーズ』です。
もちろん、『ア・リビング・アイラインド』は、いつかライブ演奏する中で、ハイライトになること間違いなしですね。
この曲は、地球上の誰もが皆同じように感じていて、耐えていたことを心に残る物語として伝えています。
曲でそういうことができるのは滅多にありませんよ。世界全体が共感できると思います。
ライブで歌えばとても感動的で、その場にいる人みんなと前向きな気持ちを共有できるはずです。

『ザ・クエスト』が上手くいったのはスティーヴがプロデュースしてカーティス・シュヴァルツが
エンジニアをやってくれたことによるところが大きいと思います。
2人がいたから、イエスが手綱を握って、自分たちの制作プロセスを進めることができました。
より深いディテールまでこだわって音楽を育て、必要な時間をかけて私たちの努力を完全に実現することができました。

このアルバムを作ることが、自分たちのアイディアを最後までブレずにやり遂げる励みになりました。
昔から変わらないイエスのやり方です。
アルバムの曲を演奏したりその世界観に浸ったりするアルバムシリーズツアーはとても刺激的なものになる気がします。
ツアー中やツアー後にもっとクリエイティブになった自分になることがよくあるんですよ。
ライブパフォーマンスで気持ちが昂っているというのもありますし、
もちろん才能溢れるバンドメンバーの直接的な影響もありますね。曲作りにもよい影響を与れてくれています。
アルバムを自由に作れるようになったことで、自分たちが望む音楽の方向へ、
さらに自由に、自信を持って進むことができるようになりました。
スティーヴがプロデュースしていることで、みんながより心をひとつにして、自分事として制作にあたれていると思います」。

「『ザ・クエスト』が発表されたときは、ものすごく嬉しかったですね」と語るのはビリー・シャーウッド。
「イエスファンの間でも、『やったな！』という喜びが沸き起こっていました。
実際にイエスとして何かを成し遂げたと、素晴らしいレコードを作ったんだと、私も『やったぞ！』という気持ちです。
今回も独自のテイストがあるアルバムですが、イエスの世界全体で見ればちゃんとその中に収まっています。
『ザ・クエスト』は、イエスが初めてクリス・スクワイアなしで作ったアルバムです。
『どんな風に仕上がるのか？』と気になっていましたね。彼はこのバンドにとってとても大きな存在でしたから。
ファンにとっても、特に私にとってもね。ですが、みんな今回のアルバムを気に入っていてくれ、
イエスのレコードだと受け取ってくれているようです。そこは議論の余地がないと思います。

私が自信を持って言えるのは、クリスをよく知っているし、
イエスの活動内外で一緒に音楽をやってきた仲なので言えることですが、
『ザ・クエスト』はクリスも認めるものだということです。確かに『ザ・クエスト』に少しだけマイナスな感情を持っていましたね。
少しためらいを感じていました。ですが、今はそのような気持ちはありません。
ただただ、みんなに『すごい！』と言わせるようなベースラインを作りたいと思って取り組みました。
今作っている新曲でも『すごい！』と言わせられると思いますよ。
今は、警戒心も、不安も、疑問、疑念も一切ありません。
自分が正しいと思うものをただ演奏していて、
その中で『クリスならこういうの好きだろうな。よし、いけるぞ。』と考えているんです。
その大部分がスティーヴがやっている作曲とプロデュース、そして自分たちそれぞれのことをするたために
作り上げたやり方に関わるものですが、そのおかげでバンドが非常にクリエイティブでプロダクティブでいられているんです」。

「このレコードには非常に感銘を受けました」とジェイ・シェレンは語る。「これは非常にまとまりのあるアルバムだと思います。
リモートで録音された部分があるにもかかわらず、メンバーがそれぞれが持っている調和のとれた繋がり、
そしてイエスのバンド精神がとても美しく伝わってきますね。

素晴らしいと思います。
模索的な音楽で、自由な精神に溢れ、刺激的な音を繰り出しており、全体として見事に仕上がっています。
メンバー全員が輝いていますね。まさにイエスがなぜここまで長寿のバンドであるのか、その理由の証しです。
そのすべてを表したものだと思います。
その一部になれて感激しています。
アランがロサンゼルスでビリーと一緒にカッティングしている間に何曲か聴きましたが、圧巻でしたね。
彼は素晴らしく、ビリーは偉大なプロデューサーです。
彼はドラムとパーカッションセッションを担当し、スティーヴがプロダクション全体をまとめていました。
私はただスタジオに行って準備をし、自分たちがやることを1つ1つこなしましたね。
アラン、ビリーと私で一緒にパーカッションパートをまとめ、私が録音しました。
何かこれいいなと思ったらそれを録音していったんです。

創造性が溢れていますよ。間違いなくね。バンドがノっているって感じがするんですよ。
『ザ・クエスト』は、メンバー全員にとって素晴らしい体験でした」。
「『ザ・クエスト』は、2020年代のイエスの音楽を一新したものです」とスティーブは話す。
「再始動であり、今のやり方とパンデミックであっても今後どのように活動していくかを再検討しています。
そして、パンデミックでも私たちを止められません。私たちイエスはこれからも音楽を作り続けます。まだまだこれからです。」
ゴットリーブ・ブラザーズ
2022年4月・5月